

実用化実証事業・光触媒グループ 中間評価報告書

日 時： 平成 28 年 1 月 21 日（木） 14：00～16：00
場 所： KSP 西棟 7 階 707 会議室
委 員： 堂免 一成 東京大学大学院工学系研究科 教授
 亀井 信一 株式会社三菱総合研究所 政策・経済研究センター センター長
 竹内 浩士 （国研）産業技術総合研究所 評価部 首席評価役
 藤本 嘉明 （一社）抗菌製品技術協議会 専務理事

報告者： 実用化実証事業・光触媒グループ グループリーダー 藤嶋 昭
 同 サブリーダー・常勤研究員 落合 剛
 同 サブリーダー・常勤研究員 石黒 斉

平成 25 年度及び平成 26 年度の実用化実証事業・光触媒グループの実績等について、以下の観点から評価を行った。

【研究成果の視点】

- ① 研究の業績はあがったか
 - ・十分に上がっている。特に抗菌分野での JIS・ISO 化の取組に KAST がかなり貢献したと考えられる。なお、すでに行っていると思われるが、東京理科大学光触媒国際研究センターとの技術的な連携による成果も業績として主張していいのではないか。
- ② 研究成果の公表は活発に行われたか
 - ・研究期間・人員数から考慮して、充分に行われていると判断する。
- ③ 研究成果の実用化・技術移転が図られたか、また研究成果は今後の展開に期待できるものか
 - ・NDA の件数、及び共同研究の相手先に民間企業が多いことから実用化・技術移転は充分に図られていると推測できる。テーマによっては、すでに KAST の手を離れ企業での開発に移りつつあると思われる。
 - ・歯科治療・前立腺がん治療など医療分野への応用について、今後の展開が期待できる。
- ④ 研究成果の権利化は図られたか
 - ・維持費用などもかかる中、累積の出願件数等から見ても充分行われていると判断する。

- ⑤ 企業との共同研究は行われたか
- ・活発に行われている。
- ⑥ 研究成果は今後の展開に期待できるものか
- ・製品開発は企業が中心で行うとしても、その基となる共同研究や権利化が充分にある。今後、KAST 発の大きな成果が実用化されると素晴らしい。医療分野でも面白い展開が期待できる。

【研究室運営の視点】

- ⑦ 研究の方向性は妥当であったか、また研究計画に対して順調に進捗したか
- ・妥当であり、順調である。
- ⑧ 共同研究負担金や競争的研究資金など資金の導入は図られたか
- ・文部科学省の地域イノベーション戦略支援プログラム、科学研究費補助金などの競争的研究資金を獲得し、また共同研究も十分に行われている。
- ⑨ 経費の配分は適切であったか
- ・適切である。
- ⑩ 人員体制は適切であったか
- ・平成25年度・26年度の体制としては適切であった。
 - ・今後、抗菌分野の認証データ取得や受託試験を行っていくのであれば、その収入も見込めることから、研究者を支援する人員がより多く配置されることが望ましい。

【委員長の見解】

本実用化研究は、研究代表者らのオリジナルな研究成果をベースにして、実用化を目指して研究が進展しているという点で KAST のプロジェクトとして行うにふさわしいものと判断する。更に、新規な医療分野へも意欲的に進出しようとしており、今後の成果に期待したい。

以上

平成28年 2 月 15 日

委員長 堂 免 一 成 